

## 科学者委員会（第23期・第6回）議事要旨

- 1 日時 平成27年4月9日（木）18:30～19:30
- 2 場所 日本学術会議 第5-B会議室（5階）
- 3 出席者 向井千秋委員長、長野哲雄副委員長、小森田秋夫幹事、土井美和子幹事  
（第一部）山川充夫委員、久留島典子委員  
（第二部）大杉立委員、古谷野潔委員  
（第三部）氷見山幸夫委員
- 4 配付資料
  - 資料1 第1回科学者委員会の議事要旨【11月19日開催】
  - 資料2 協力学術研究団体指定関係資料
  - 資料3 協力学術研究団体実態調査実施方針について（案）
  - 資料4 日本学術会議中部地区会議主催学術講演会の開催について（提案）
- 5 議題
  - ・今期初出席の山川充夫委員、古谷野潔委員、氷見山幸夫委員より挨拶があった。
  - （1）協力学術研究団体の指定について
    - ・全国公衆衛生関連学協会連絡協議会及び日本周産期メンタルヘルス学会の指定について、前者は全て協力学術研究団体より構成されており、後者は基準を満たしていると考えられることから、特段の意見等なく承認された。4月24日（金）幹事会に提案することとなった。
  - （2）協力学術研究団体に対する実態調査の実施について
    - ・相手は個人ではないので、どのような目的で調査を実施し、その結果をどのように扱うのかという基本方針を団体への送付状に示さないと問題が多い。
    - ・調査自体は事務局が行うが、日本学術会議会長が責任者ということであれば、調査票などにつき、会長に諮るか、幹事会に諮らないといけない。
    - ・調査結果によっては、協力学術研究団体の指定を取り消すこともあるというのであれば、調査根拠や見直しの基準等が団体への送付状に記載されていなければならない。
    - ・必要があれば手続の改定も含め、実施目的や調査結果の取扱いについて事務局で今後とも検討してほしい。

(3) 日本学術会議中部地区会議主催学術講演会の開催について

- ・ 特段の意見等なく承認された。

(4) 科学者委員会の今後の運営について

- ・ 委員会は、分科会の活動で支えられている。分科会の報告をしていただかなければならない。科学者委員会所管でまだ発足していない分科会もあるので、その理由を明らかにされたい。
- ・ 科学者委員会のアジェンダに分科会の報告を入れた方がよい。
- ・ 分科会を一斉に立ち上げると作業が大変なので、昨年10月に会長がイニシアチブをとって喫緊のものは立ち上げたが、そうでないものは徐々に立ち上げることになっている。
- ・ 22期のときの分科会の開催状況を事務局が整理し、議論して、それぞれの必要性を問うべき。
- ・ すべて立ち上げるという前提で、まずは世話人を決める議論をし、いらぬものは止めるというのが前向きな姿勢でよいと思う。
- ・ 会長や事務局と相談し、整理する。

以上